

Postgraduate Mycobacterium education for medical staffs-seeking for a better integrated medical care

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/46123

『学会開催報告』

第91回日本結核病学会総会
—医療スタッフの抗酸菌症卒後教育—
—より良いチーム医療を求めて—Postgraduate *Mycobacterium*
education for medical staffs-seeking
for a better integrated medical care金沢医科大学 呼吸器内科
石 崎 武 志

北陸3県では66年ぶりの日本結核病学会総会を開催しました。我が国の結核病罹患率は緩やかに減少が続けていますが、呼応するかのように卒前の結核学部教育の希薄化が卒後の医療従事者に抗酸菌症は過去の問題と看過されがちとなり、また、国民の結核脅威への関心の低下も周知のことです。そして、結核抗酸菌症患者の地域偏在と医師職の診療科偏在・地域偏在というねじれ現状は改善されそうにはありません。結核・抗酸菌症診療体制の効率化が求められます。そこで、本学会のテーマを「医療スタッフの抗酸菌症卒後教育—よりよいチーム医療を求めて—」としました。7会場を利用して、招請講演2題、特別講演2題、教育特別講演1題、シンポジウム43題、ミニシンポジウム6題、会長講演1題を含む323演題が発表されました。開催場所が金沢であったせいか、ここ10年間で最も多い演題数となりました。抗酸菌診断の進歩、IGRAの有用性、耐性菌への新規抗菌剤治療、LTBI（潜在性結核感染症）、小児結核、外科療法、外国人結核、NTM（非結核性抗酸菌症）への対応、NCDs（非感染性疾患）における結核対策、DOTs、結核集団感染・院内感染対策、結核保険看護などのテーマをめぐり各会場で活発な意見交換がなされました。中でも、特別講演「高齢者結核の特徴と治療上の問題点」、教育特別講演「肺結核の画像診断」やシンポジウム「結核・抗酸菌感染症教育はいかにすべきか、いかにあるべきか」、シンポジウム「IGRAの有用性」、シンポジウム「LTBI診断と治療適応を巡って」、シンポジウム「認定医・指導医・エキスパートの役割」、シンポジウム「地域医療における抗酸菌症患者ケアの問題点～診断・治療に影響する因子への対応と多職種連携～」などは関心度が高く満席の会場も見られました。

会場には医師・研修医、保健師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などチーム医療には欠かせない職種の方が1400名程参加しました。昼時間は9つのランチョンセミナー会場も満員でした。さらに、代議員会懇親会（しいのき迎賓館）と全体懇親会（ホテル日航金沢）には金沢ならではの食べ物と能登ワインや能登北部酒造メーカーを中心に北陸3県の銘酒を堪能していただきました。

会期中には若手医療者向けに（卒後）抗酸菌症エキス

パート集中セミナーを2日間午前・午後に開いた会場は立見席が出るほど盛況でテキストブックを急ぎょ増版しました。さらに、最終日午後には第239回ICD(Infection control doctor)講習会をICDのための抗酸菌学講座のタイトルで開催しました。また、石川県民向けの公開セミナー（参加費無料）、健康と伝統文化を楽しむを約90名の市民の方が拝聴しました。北陸「新幹線」の話題から「新感染」への話題転換には一同爆笑でしたし、タバコ、PM2.5と肺の病気の講演では参加者一同真剣なまなざしでした。最後の輪島塗の話題ではその作業工程の精緻さと日用製品としての新しい輪島塗の発展に目を見張る思いでした。

今会の総会時には新規会員も増え、総計4000名をこえる学会員となりました。次世代医療者へ抗酸菌症研究の進歩と診療の進歩を確実につなげていける一歩となると期待します。また、学会としての教育・啓発活動をさらに拡大していくという姿勢が必要と感じられる好機でもありました。

最後に、本学術総会開催・運営に多大なご支援をいただきました企業・団体、金沢大学十全医学会、石川県、金沢市、金沢医科大、福井大、穴水町、公立穴水総合病院の皆様には厚く感謝申し上げます。

